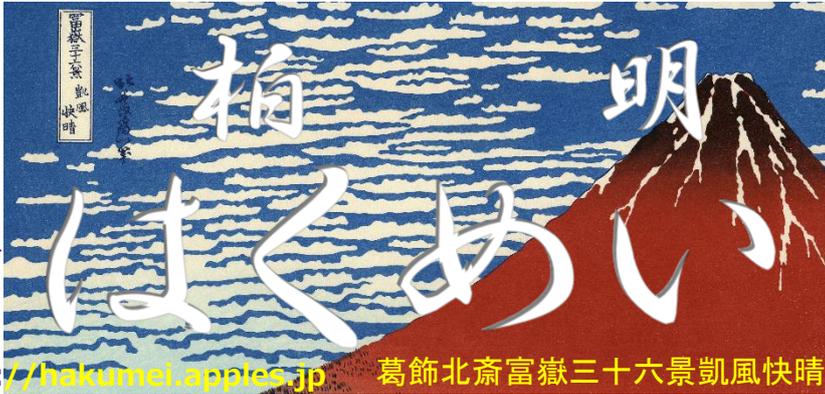




明治大学校友会  
柏地域支部

ホームページ: <http://hakumei.apples.jp>



— 第27号 —

発行日 令和3年1月1日  
 発行 明治大学校友会千葉県  
 西部支部柏地域支部  
 発行人 竹之内 明  
 住所 〒277-0805  
 千葉県柏市大青田 1015  
 電話 04-7131-3080  
 編集 山田秋彦  
 (☎ 04-7169-0333)  
 E-Mail: hakumei2@gmail.com

- P1: 新年のご挨拶(竹之内)ほか  
 P2: 明大今昔話(山田研一)ほか  
 P3: つれづれなるままに(柴田)  
 P4~P5: 82歳の試練(加茂)  
 P6: 歯科医の待合室(吉田)、  
 イベントの予定ほか

新年のご挨拶



竹之内 明  
昭和44年商卒  
柏地域支部長

新年あけましておめでとうござい  
 ます。コロナ禍での令和3年を迎え  
 ましたが、会員の皆様におかれまし  
 ては、益々ご健勝にて新年を迎え  
 られたこととお慶び申し上げます。

令和2年は、新型コロナウイルスの  
 感染影響により、3月の「お花見会」  
 を始め、令和2年度中の行事は、全  
 て中止となり、当支部の目的の一つ  
 であります「会員相互の親睦・交流」  
 を図れる機会がなかったことは、残  
 念に思っております。なお、当支部  
 の幹事会は、4月から6月までは、  
 中止していましたが、7月からは、  
 三密に注意しつつ再開しています。  
 幹事会開催の日時、場所はホームペ  
 ージに記載しているので、幹事以外の会  
 員の方でも都合の良い方は、お顔を  
 出していただければと思っております。  
 とところで、「はくめい」第27号の掲  
 載記事についてであります。今回

はコロナ禍での日常生活の一端を記  
 事内容と致したく、7名の方にお願  
 いをいたしましたところ、快く寄稿  
 して頂きありがとうございます。  
 コロナ禍ではありますが、当支部の  
 行事等が開催できる日が一日も早  
 く来ることを願うとともに会員皆  
 様のご多幸をご祈念申し上げます。

新型コロナウイルス  
感染状況下の福祉



宮本 哲男  
昭和48年商卒

私は現在、介護福祉士(高齢者施  
 設等で機能低下している高齢者の食  
 事・入浴・排泄等の介助を行う者)の

身内の方も心配している状況が今で  
 も続いています。

養成学校で教鞭をとっています。今  
 年は緊急事態宣言で学校も当初校  
 内で授業が出来ず、パソコン等を使  
 用してのリモート授業になりました。  
 この授業は、学生の顔は見えるので  
 すが、個々人の雰囲気みたいなもの  
 は伝わってきません。結構難儀しま  
 した。当然パソコン操作にも苦労し  
 ています。現在は、教室で授業を行っ

ていますが密を避けるためソーシャ  
 ルディスタンスを取り、手洗い・うが  
 い・健康状態の確認や空気の入替  
 え、マスクの着用に注意をはらわな  
 くてはなりません。  
 高齢者は新型コロナウイルスに感染  
 すると重症化しやすいので、学生に  
 は感染しないように注意して行動す  
 るように教えています。また、高  
 齢者施設内での感染をニュース等ご  
 存知かと思いますが、各施設では細  
 心の注意をはらって施設運営をして  
 います。ただ、施設等の入居者は身  
 内と未だに直接面会できない状態が  
 続いています。ここでもリモートによ  
 る面会になっています。高齢者は身  
 内が来ないと不安になる方が多く、  
 同様に、介護の学生は施設現場で  
 「実習」として勉強しなければなりま  
 せんが、今年は施設から受け入れて  
 もらえないことが多く、苦慮していま  
 す。いつまで、このような状態が続く  
 でしょうか。ワクチンが出来て、今のイ  
 ンフルエンザのような状態になるまで  
 は無理でしょうね。早く、従来の日常  
 になることを願うものです。皆さんも  
 そう願っていらっしゃると思いますが。

明大今昔話



山田 研一  
昭和53年法卒

新型コロナウイルスは、昨年2月から蔓延し始め、令和2年4月の緊急事態宣言後は、大学もその影響を受けて休校状態とのこと、同級の大学関係者の言うことには、ロックアウト状態とのことだ。

ロックアウトといえば、私が入学した昭和48年の2年後に大学がロックアウトになり、試験がレポートとなった経験がある。すでに大学紛争は下火になっていたが、確か反帝学評という団体が本校の大学の一角を占拠していた。入学した昭和48年は、授業料は、後期は18万円位でそんなに高額ではなかった。ロックアウトの原因は、昭和49年の秋に在校生の授業料も大幅な値上げすることを大学が示した事により、反帝学評の連中が騒いで、大学側が学校の安全が保たれないという事で、大学を封鎖したと記憶している。

その年の後期に入って、ロックアウトに対抗して、学生が授業をбойコットするストを行う事が和泉の校舎で広がり始めていた。私たちの講義も

授業中に反帝学評の連中が来て、学生のスト権を維持するために授業をboyコットするようにと迫ってきた。当時クラブ関係で、学生服を着用していた私は、今授業中なので、「出ていけ」と言ったが中々出ていかない。

困ったなと思ういたら、クラスの人々が「苦勞して貯めた金で授業料を払って受けに来ているんだ。お前たちが授業の邪魔をすることは許さない！」と叫んだ。その迫力に負けてか連中は退散して授業が再開された。聞くところによると、授業がないときは、工事現場のアルバイトをしての稼いでいるとのこと、日当は4,800円なので40日働けば賄えるというようなことが聞いたと記憶している。その後もそのクラスメイトは何とかやりくりをしたのだろう。一緒に卒業した。

その当時、明治大学の授業料は安かった。聞くところによると、授業料を安くするために大学が借金をしていたとのうわさもある。昭和49年入学の後輩に聞くとそんなに授業料が安いと感じていなかったそうだ。今の授業料は、年間120万円位、さすがにアルバイトで稼げる金額ではない。菅総理大臣が今の時代の学生ならば、とても授業料を稼いで卒業することはできなかつたと思う。

さて、大学の授業料を安くしても

らう政策は、国会議員の桜田先輩にお願いして、昭和48年以前に卒業された先輩は、今困っている現役学生たちのために資金的な応援をしていたらきたい。

当方昨年から老齢年金の受給者の仲間入りをした。権利自由・独立自治の校風にとっぶり浸かった校友の家族は、年金など当てにはしていないだろうから、当時学校が大借金をして卒業

させてくれた大学に、恩返しのもりで春風を吹かせてもらいたい。まずは、「明治大学学生・教育活動緊急支援資金」を検索！



GOTOキャンペーン



宮本 仁也  
昭和49年政経卒

連日、新型コロナウイルス関連のニュースが流れていますが、校友の皆さんいかがお過ごしですか？令和2年4月

7日「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の一環として政府は1兆68057億円の年度補正予算案を閣議決定しました。このうち1兆6794億円が「GOTOトラベルキャンペーン」に充てられています。キャンペーン期間は令和3年2月末までですが、令和2年11月末で利用者5260万人を超え、好評により令和3年5、6月迄延長する案が有力視されています。

参加希望の人は大手(中小も可)旅行代理店等を通して予約し、旅行代金の35%の割引が受けられ、さらに旅行料金の15%の地域限定割引クーポンがついてくるという大変お得なトラベルキャンペーンです。

私は10月中旬、このキャンペーンを利用して「有馬温泉く城崎温泉の名湯と、姫路城、竹田城跡く天橋立、丹後半島巡りの旅」に参加してきました。東京駅集合で新大阪迄新幹線利用。新大阪からは団体バス利用の2泊3日の旅でした。今回の旅行メリットはSランクのホテルが割引料金で泊まれ、朝昼夜の飲食代や土産物の購入等に地域限定割引クーポンが利用できたことで、割安感と満足感がありました。良い旅の思い出となりました。

勿論、コロナ感染予防対策として、

マスク着用、手洗いや手指の消毒徹底やバス内での飲食禁止、各宿泊先では食事時テーブル等のソーシャルディスタンス確保や大浴場への入場人数制限など種々配慮がありました。直近ではコロナ感染拡大が懸念され、地域によってはキャンペーンの一時中断もあり得る状況かと思えます。このキャンペーンの利用は個人判断となりますが、経済対策としての効果も大きいと思われます。キャンペーンご検討の参考になれば幸いです。

つれづれなるままに



柴田 良子  
昭和45年文卒

私は年号が令和に変わる直前の平成31年4月5日早朝、突然背中に異常を感じ、お隣さん呼び、救急車の手配、娘達への連絡と・・・大騒ぎ。病名は大動脈解離でした。そのころ、ステキににんにく、そしてピザのチーズは3倍という食生活。アウトですよネエ。ごく最近、東映会長の岡田裕介氏が亡くなりましたが、同じ病名でした。どうして私は生きているのか

医師にたずねたところ、動脈の裂けたのが外側だったからとのことでした。入院45日目豊洲の昭和医大で手術を受け、命を頂いた次第です。市役所からの通知によると、治療費の合計が700万円弱でびっくり。私の負担は県民共済からの35万円位で済みました。社会保障の有難みをしみじみ感じ、消費税の恩恵を受けております。

さあ~~~~生命を頂いたら行動を起こそうと思ひ、故郷の宮城県人会(松戸が本部)の役員を引き受け、お祭りやさまざまな行事に率先して参加しました。(現在コロナで休止)

その次は私の元気の源である明治大学への日ごろの感謝を込めて、今秋、ラグビー部、サッカー部、競争部(駅伝)へお米30kgを、差し入れました。明大スポーツを通じて送ったところ、即お礼状が届きました。ラグビー部が早かったですネエ。12月6日の勝利も日ごろのチームワークのおかげだと実感しました。本当に嬉しかったです。

現在、私は心臓血管外科への定期健診、栄養指導を受け、ボケ防止の為に毎月10日前後、仕事をしています。3歳になる孫(男子)と世田谷近くにあるラグビーの練習風景を一緒に観に行くのが夢です。

早くコロナがおさまらないかねえ。私は持病持ちで75歳以上なので、毎日コロナ感染を警戒しつつ、マスク選びを楽しんでおります。会員の皆様もご自愛くださいませ。

明早ラグビー



山田秋彦  
昭和53年工卒

令和2年12月6日、秩父宮ラグビー場で関東大学ラグビー対抗戦、明早戦が行われ、明治が34対14で早稲田を破り優勝しました。ここまで6戦全勝の早稲田に対し、5勝1敗の明治、勝ったほうが優勝というケースでした。

明早戦は人気が高く、以前からチケットの入手が大変でした。今年はコロナ禍で席数半減と、さらに厳しい状況でしたが、運よくWebの先着順の販売で購入することができました。

ラグビー場は入場時のマスクの着用と体温確認、試合前のエールの交換・校歌斉唱、ハーフタイムのチャリダー演技は中止、大声援・飲酒は禁止、グッズ販売・新聞配布は行わない、など防疫に努めていました。私感ですが会場が屋外であり、さほど混雑せず、濃厚接触者といえるのは同行者のみで、感染の注意は必要ですが、特に危険な感じはしませんでした。試合は立ち上がりから明治が押し続けたものの、早稲田の防御が硬く、何度もトライを阻まれましたが、前半15分、ついに著本主将が先制トライ。勢いづいた明治はラインアウト、スクラム、モール、パス、タックル、いずれも早稲田を圧倒し、前半19分には連携プレーで、23分にはモールで押し込みトライ。後半に入っても勢いは止まらず、点差以上に早稲田を圧倒した試合展開になりました。

勝利談話、「明治らしい前へ出る試合ができた」「早慶戦のビデオを参考にチーム内に早稲田コピーを作り、検討・対策を繰り返して試合に挑んだ。メンバー23人だけでなく、チーム全体の頑張りが評価される結果」「この結果に満足することなく、成長するチームが大学選手権優勝をつかみ取れる。明治はここから、また成長していく」

早稲田もこのまま引き下がるとは思えません。大学選手権で、明早ともに勝ち進めば、昨年同様、決勝で再戦も考えられます。互いにさらに成長して、正月の準決勝、11日の決勝で、見ごたえのある試合をみせてくれることを期待します。

## 82歳の試練



加茂 治男  
昭和37年商卒

私にとって、ただ一つ趣味らしいものと言えばゴルフであるが、すでにプレーを止めてから5年になる。10年前ごろから、明大OB会のコンペなどでプレーをする度に腰痛に悩まされた。また歩いていて突然左腰が痛み始め、しばらく休み休みしながら散歩した事があった。おかしいと思いつつ、我慢しきれず、柏市立柏病院の整形外科でレントゲンを撮った。外科医から左股関節の軟骨が減り、それもかなり進行しているようだと言われた。市立柏病院には、股関節の専門医はいない、医師から専門医のいる松戸市立病院と松戸整形なら紹介出来るということだった。家内とも話したが、松戸は遠いなと迷っていた。それでも毎日のストレッチで脚腰の筋肉は鍛えてくださいと医師から言われていた。つくばエキスポプレスの柏田中駅の近く、3年前に開業した柏たなか病院（旧田中農協病院）がある。そこに整形外科があり、股関節の担当医もいるら

しいと話を聞いた。またそこは、リハビリの学校があり、リハビリテーションが充実しているようだ。

まず診察を受け、リハビリセンターに通い始めた。令和元年の春ごろの診察では、すでに末期に近い、と言われ、早めに手術をと医師に薦められた。その頃は、3月に実兄が亡くなり余裕がなく、我慢すれば、なんとかなりとか歩けるな、実の妹からも、その歳での手術はリスクが高いなど、結論を出せなかった。

何回目かの診察で、担当医に、「このままにしておく」と聞くと「歩けなくなる、また右の腰も負担がかかり同じ症状になる」と脅かされた。また今は、手術は進んでおり、年齢はあまり気にしなくても良いという事だった。家内も同席しての話だった。

現在、私は82歳、後5、6年は元気に歩きたい、世の中を楽しみたいと欲を出し、年がいもなく多少年齢的に厳しいが、手術を受けようと思った。家内から、「思い切って、やったら」の一声で背中を押されての結論を出した。4月に入り、日にちを決める診察があったが、ちょうどその時期、コロナの第一波が始まり、柏たなか病院でも、何名かの感染者がでていた。そこ

で、4月は止めて、しばらく様子をみて、手術の日を決めたいと申し出た。担当医も了承し、6月に診察しその時決めましようという事になった。6月になり、視察を受け手術日を、7月13日(月)に決めた。その日に事前検査で、レントゲンやら、超音波、血液など細かく体調を調べた。ここ3、4年、心臓の病(狭心症、不整脈)は比較的安定しており、市立柏病院の主治医から、股関節手術の了解は取っていた。

入院は7月11日、手術前のいろんな検査をした。13日、当日は午後2時より手術が始まる。午前中に、手術の流れの説明があり、点滴が始まった。全身麻酔なので、麻酔科の先生が説明にきた。後は、まな板の鯉、年老いた鯉で跳ねようにも老いて勢いが無い。ただ、たんたん調理されるに違いない。

手術室に運ばれ、手術台に横になる、点滴用の針はすでに刺されたままで、「これから麻酔薬を入れます、だんだんと眠くなりますよ」と聞いてしばらくして、ねむったらしい。目が覚めたのは病室だった。終わったらしい。痛みはあまり感じなかったが、ただ、ただ寒い。部屋には家内がいて、「予定よりかなり時間かかったが無事成功した」と担当医が言っていたと話した。(股関節がチタ

ン合金の金属に置き換えられた)それを聞きながらまた眠ってしまった。真夜中、気持悪さで目が覚めた。喉が渇くが、まだ水も何も飲めないらしい。明け方まで看護師が時々来て、口の周りを塗らしてくれて。7時には、飲み物など飲んで良いと許可がでた。只その頃から、痛みより気持悪さが酷く、飲んだ水など全て吐いた。それでも昼ごろには、看護師が2、3人で手術着を脱がし、身体を拭き、パジャマに着替えた。

やはり、82歳の試練か、術後、思った以上にいろんな副作用などで苦しんだ。手術は、2時間の予定が3時間半かかり、一応きちんと置換手術は行われたようだが、終わった後から、麻酔薬の副作用で、気分が悪く、飲み物、食べ物は一切受け付けない。手術に時間かかり、麻酔薬を多く使用したためらしい。(心臓カテーテルの時も、時間がかかり造影剤を多く使用し副作用が酷かった)術後、朝昼晩と普通食を出されるが、3日間ぐらいいは、口にするものはすぐに吐くという状況が続く何も食べられない、栄養補給は点滴で済ませた。それから微熱が続く、37.5℃を前後していた。4日目には、家内に持ってきてもらった卵かゆとヨーグル

トを少しずつ食べ始めて一息ついた。

リハビリは、まだ体調が良くないのに、術の翌日からベッドで脚を動かし、4日目からは、午前と午後、リハビリ室でのストレッチが始まった。翌週から歩行の訓練など厳しいリハビリが続いた。8日目、超音波、レントゲン、血液検査があり、翌日担当医の診察があった。「異状はなく、回復は予定どおり、ただゆっくり、のんびりとやりましょう、あと3週間くらいは、病院でリハビリを」と言われた。一人でトイレに行けたのが、12日目、やっとほっとできた気分になった。

加茂さんは、まだ年の割には若いから、大丈夫だよとおだてられ乗せられて、やってみると、痛みや副作用で苦しみ、後悔が先に立つ。手術しないで多少の痛みを我慢すれば、こんな苦労をしなかったのにと、その時は本当にそう思っていた。

7月27日に再検査、結果を先生から説明あり。「今のところ問題なし、リハビリが順調に進めば、退院は8月中旬にしますか」と。このころには、リハビリも杖を突き歩けるようになってきた。退院したのは、8月7日、予定より早めだが、入院してから28日目であ

る。入院生活はもう飽きた、医師からは、「まだ股関節の周りが完全に固定化しておらず、脱臼の危険もある、まだイエロー期間で術後3ヶ月は慎重に生活するように」と厳しく忠告された。もちろん病院への通いのリハビリを継続して行う事も。退院して数日後、自宅の風呂場で滑って、左足で思い切り支えた、その時の酷い痛みが続いていた。2日後の診察で、異状は無かったが、担当医から「やり直しの手術も大変だよ、十分注意するように」と驚かされた。

それから、術後3ヶ月を経過し、大分安定してきた。家では杖を突かないし、歩き方も元に戻りつつある。ただ、左右の脚の長さが1センチほど違うのでリハビリで調整中だ。

痛くて、苦しい思いしてまで手術(高い金を払って)をしたことが、「本当に良かった」と、思うまではまだ至らないのが現状である。リハビリを続け、半年、一年を経て本当に良かったと思える時期が来るのを待ち望んでいる。9月始め、柏たなか病院のコロナによるクラスターは、感染者数が、患者、看護師、事務員を含めると33名となっている。すでに終息宣言(10月20日)はしているが、死者が5名とか、

これが多い。その病院を利用した一人だが、他の医療施設に比べ、そこに働く人達や、患者が、コロナに対する緊張感が薄いような、手ぬるい体質もあるかなーと感じていたのは私だけだろうか。受付の体温チェックも、消毒薬の設置も他の施設にくらべ遅かったような気がする。柏たなか病院では、4月にすでに3名ほどのコロナ感染者が発生していたが、その経験が活かされていない。

入院中、家族を含め面会が出来なくなったのは、術後一週間後の7月20日、困った。家族とは会えず、メールで連絡し必要な物を持ってきてもらい、看護師が受付で受け渡しをしていた。入院中には、子供達にも、一切見舞いはするな、病院に近寄るなど厳しく言っておいた。ただ私は、柏たなか病院で今回のコロナクラスターが起こる前に、退院できたのがラッキーだった。

入院中には、時間が余分にある。ベッドでTVか、本を読む。TVは面白くなく、買っておいた鹿島茂の挿絵のついた「レ・ミゼラブル」を病室に持ち込み読んだ。

(子供の頃、「ああ、無情」は夢中になって読んでいたが、すでに半分は忘れている)挿絵がよく描かれており、

当時の生活風俗、貧困階級の実態が、詳しく捕捉され、解りやすい。フランス19世紀前半の帝政、第二共和制、パリコミューンなど激変する政治体制を経験し、生き抜いたヴィクトル・ユゴーが書いた人道的な物語でもあるが、当時の歴史小説でもある。最後のジャンバルジャンとジェラール警部との別れ、そして結末が良い。どちらにしても、多数の挿絵が、ベッドに横になっている私を楽しませてくれた。挿絵は選ばれた108葉、当時の二流画家によるものらしいが素晴らしい。長い小説だが飽きさせない。

後は、やはり過去に読んだ藤沢周平の単行本を数冊、「蟬しぐれ」、「残日録」など、すでに何回か読んだものだが、気分を紛らわすのにはちよつと良い読み物だ。

「長生きを願うのは、老いて不自由の身を考えぬからで、無益なことなり」という杉田玄白の言葉がある。幾つかの老人施設を見たり、話を聞きたびに思いをめぐらす。

ただ、やはり生きてる間は、一日でも長く自由に生き、自分のことは自分で出来るよう努力し、ある日、知らぬ間に、あの人がなくなったようだといわれる自分でありたいと願っている。

歯科医の待合室



吉田昇司 昭和36年商卒

最近、生きていて何が面白いかと聞かれれば、ただ理屈抜きで面白い。毎日が来る、それだけだ。だから面白い。

「じゃあ明日」と言って手を振って別れたが、明日がなかったりする。どうしてかと言うと、年末に挨拶が届いた。黒枠の葉書に親族だけで見送った、とある。親族でなくても背中がゾクゾクとした。死んでしまった。棺桶の蓋が、死んで閉まった、という意味だろう。

「オラは死んじまっただく」という歌を聞いたことがある。オラだけでなく、お前も死んじまったか。冥土の土産を渡すのを忘れた。なんでもいい。所詮は「冥土 in Japan」

悲しいことで笑える歳になって来た。考えてもどうしようもない。だから悲しむ意味もない。ただ笑っている。笑って入歯いいことだ。大口を開けて笑ったら入歯が外れ、歯だ

けがカタカタと外で笑った。

歯医者者の待合室にアメリカ人の若者と中国人の可愛い娘がいた。「ハワユー！」中国人の娘に彼が挨拶した。挨拶された彼女は、ニコットと笑って「ニハオ」と返した。あなたの歯で何か? 「歯はユー?」。いいえ私のじやありません。二本の部分入歯で二個と「2ー歯オ」

わたしはここに座って「居れば」いいことで納得した。なにげない景色も笑いの材料にできる。名前を呼ばれた二人は笑顔を残して各自の治療室へ向かった。待合室に残ったのはわたしだけになった。背中のバッグから本を取り出して読む。それだけのことだが楽しい。

アメリカ人の若者は大きな口を開け、中国人の可愛い子も口をあぐりと間抜けな顔で恥ずかしげもなく口を開いているのだろう。景色を想像すると楽しくなる。生きている価値というものだ。歯科医へ来ると、美人の誰もが馬鹿げた顔で口をパクッと開ける。

歯医者者はそれが楽しみでやっているとも思うと楽しい。助手の子にそんな話をしたら、仕事中に思い出し笑いが止まらず困るだろう。

生きている喜びは何処にでも転がっている。今日も散歩でネタ探し。

叙勲受賞

令和元年8月に萩原功氏が、公共的な業務で功績を積み重ねた人に贈られる「瑞宝双光章」を受賞しました。また、令和2年秋の叙勲で、山内賢明氏が、社会の様々な分野で功績があった人に贈られる「旭日单光章」を受賞されました。

ご両名様におかれましては、誠にありがとうございます。(竹之内)

イベントの予定

●新春の集い  
今年は中止になりました。

●お花見会  
今後の状況によりますが、3月下旬開催の予定です。追って連絡します。

●柏地域支部総会  
5月23日(日)、ハート柏迎賓館、懇親会費6千円+支部会費3千円

☎(080)33127846(今井)

●千葉県西部支部総会

6月20(日)、ハート柏迎賓館、懇親会費6千円(予定)

☎(04)71313080(竹之内)

イベントはあくまで予定で、コロナの感染状況により急遽、延期または中止になることがあります。最新情報は、各イベントの担当者に直接電話にてご確認お願いします。事務局ではコロナ禍での活動として、3密を避けたオンラインによる交流も試行しています。ご期待ください。

●コロナ即減印

会員の山田研一さんが彫られたコロナ即減印をお届けします。

コロナです



コロナ即減印 山田研一作

訃報

令和2年9月22日、昭和55年商学部卒、当会幹事の勝保清三様がお逝去されました。氏は当会事業部長、マンドリン実行副委員長を歴任され、当会の活動に大いに貢献されました。謹んでお悔やみ申し上げます。